

□■受験対策ミニ講座 20号 2020□■

立春も過ぎ、季節は新しい年度に向かって進んでいます。国家試験、お疲れ様でした。まずは全力を尽くした自分自身をねぎらい、褒めてあげましょう。そしてエネルギーを蓄えたら、普段の生活を取り戻して次のステップへと向かっていきましょう。

今回の【Plus Column】は試験から離れて、映画案内をお送りしたいと思います。

■Plus Column・・・・・・・・

【カメラをとおして世界へ】

試験の重圧から解放されて、スキーやウィンタースポーツに出かけましたか？それとも、ゆっくりお昼寝？インドア派のあなたは「見逃した話題作をレンタル」でしょうか？

昔からイタリア映画や日本映画に家族を描いた名作が多いといわれていますが、英国のケン・ローチも家族を描き、社会の底辺に生きる人々の問題を提起する作品を作り続けてきた監督です。90年代に多くの作品が国際的な賞を受賞し、「巨匠」と呼ばれるようになりました。いったん引退表明をした後、83歳でメガホンをとった『家族を想うとき』（2019年）は「フランチャイズ契約」という働き方が家族を壊していくという、世界に共通する問題がとりあげられています。

ケン・ローチ監督を尊敬してやまない日本の是枝裕和監督の作品『万引き家族』が、世界的な賞を受賞して話題となったのは、一昨年のことでした。現代社会の断面を映し出し、家族や、社会について問いかける作品の評価は高く、前述のケン・ローチもファンの一人だとか。「邦画より洋画をよく見る」という方も、「なぜ、日本映画が世界で評価されるのか」という観点で鑑賞すると、違う景色が見えてくるかもしれません。

今回のアカデミー賞にノミネートされている『ジョジョ・ラビット』は、10歳の少年ジョジョと家族の物語です。第二次大戦下のドイツを舞台とし、ナチス少年団「ヒトラーユース」に参加する少年の目を通して、戦争と差別について問いかけます。

ちょうどこの映画が描き出している時代にアメリカに亡命したユダヤ人のソーシャルワーカー、コノプカは、少年少女がナチスの思想に巻き込まれていったことへの反省から、民主主義を基調とするグループワークの理論化に貢献しました。

小児科医でユダヤ人ゲトの孤児院の院長だったコルチャックも、子どもの権利に関する先駆的な思想を提唱した偉大なソーシャルワーカーでした。今回の国家試験に「ヤヌス・コルチャック」の名を問う出題があったことに、差別、不寛容、憎しみ、そして戦争は決して過去のことではないことを改めて考えさせられました。

「試験から離れて…」といいながら、最後は試験の話になってしまいました。試験を終えてホッとしている方も、次回のチャレンジを誓っている方も、様々な文化や芸術に触れて、心豊かなソーシャルワーカーとなって活躍されることを願います。「2019年度受験対策ミニ講座」は今回で終了します。みなさま、ありがとうございました。

※次回の養成所ニュースプラスは3月中旬発行の予定です。修了生の方も事務連絡等ありますので、今しばらく、おつきあいください。

■Back Number・・・・・・・・

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus